

## 地方自治ここにあり 首長インタビュー

# コロナウイルス感染拡大下の始動 安全・安心・健康な町へ



三浦源吾御坊市長

御坊市長 三浦 源 吾 さん

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により全国緊急事態宣言が発出されていました2020年5月17日、三浦源吾さんは無投票で御坊市長に初当選しました。

新市長三浦さんにとって、この一年はコロナとの戦いであり、向こう10年間の御坊市のまちづくり計画をつくる重要な日々となりました。前和歌山県日高振興局長で行政手腕が期待される三浦市長に危機の時代とまちづくりなどについてお聞きしました。

聞き手は、本研究所鈴木裕範常任理事です。

### コロナウイルス禍中の 市長就任

**鈴木：**新型コロナウイルス問題は、収束の見通しが立っていません。御坊市民も不安を感じている方が多いと思います。三浦市長はコロナ対策にどのように取り組んできたのか、そこから聞かせていただけますか。

**市長：**昨年6月11日が初登

府でした。緊急事態宣言が解除されていたとはいえ、市民の皆さんに消毒液やマスクが十分に行き渡っていない。また地域経済活動も

収縮している最中にありました。そこで、一番に何をしなくてはならないかと

で考えながら、それぞれの施策を行ってきたところであります。

国からの交付金を活用して、全市民を対象とした商品券の配布や水道料金の減免などを行いました。地方の飲食店は、当初は持家や家族従業員で何とか持ちこたえてきたと思うのですが、これだけ長期になると飲食店関係の皆さん方も苦しくなってきており、飲食店の灯を消さないため、国の地方創生臨時交付金を活用させてもらい、今回の第3次では飲食業の支援に重点を置きました。

また、この6月議会において、新たな対応策についても発表します。

**鈴木：**コロナ対策では、最前線の市町村が大変御苦労し、しばしば右往左往させられてています。

**市長：**そうですね。

**鈴木：**地域経済、市民の方

の暮らし、一番深刻な影響はどういうところに出ていますか。

だきました。国の持続化給付金や雇用調整助成金、それを補完する県の施策を見ながら、市独自として市民が本当に必要としている施策は何なのかを職員みんな

## わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所  
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号  
TEL・FAX 073-488-3127  
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2021年7・8月号

### 目 次

地方自治ここにあり 首長インタビュー  
コロナウイルス感染拡大下の始動  
安全・安心・健康な町へ

御坊市長 三浦 源吾さん…… 1

草の根運動の実り みんなの願いを持ち寄って  
社会福祉法人 桃郷 常務理事 舩木 栄子……… 6



御坊市街地

で、いろんな制約をかけていると思います。市主催の人が集まるような事業は昨年全くできませんでした。

花火をやむなく中止としました。経済活動においても方が何らかの影響を受けていると言われていますが、地方にも徐々に響いてきています。

今、コロナ対策として取り組まなければならないのはワクチン接種です。我々は昨年末から準備してきました。ワクチンのめどが立てば7月末までに高齢者接種を終えるということで、今取り組んでいるところであります。とにかくワクチンを十分に供給していただき、希望するすべての市民の皆さんに1日でも早く打つてください。これしかないと思っています。

### 災害による犠牲者ゼロ 市民の命と財産を守る

鈴木：市長は、選挙公約の

1つに、「健康で生き生きと安全に、ここに住みたいまち」を挙げていました。

三浦市政がスタートして

一年余り、この春には第5次の総合計画を策定しました。御坊市が目指す将来像、「人と自然が調和し、笑顔と活力あふれる御坊／みんなで創る、安全・安心のもと、健康でいきいきと暮らせるまち」としています。

市長：安全・安心・健康、これは最重要テーマだと思っています。私のマニフェストの大きな柱の中にも入れさせていただいています。市民の皆さんには、ふるさと御坊に愛着を持っていたとき、誰もが安全で安心して快適に暮らせ、将来にわたって健康でいきいきと暮らせる。「生まれて住んでよかつたまち、御坊」、「誰もが住みたいまち」というのをテーマにしています。今回の総合計画で、この実現に向けて頑張つていきたいと思つています。

鈴木：京都大学の災害防災研究センターの河田先生は、災害と、今度の感染症は同じだと言つています。市長は安心・安全なまちの中で、災害に強いまちづくりを、第一に挙げておられ

るわけですが、南海トラフ地震、ゲリラ豪雨とか、様々な災害があります。災害対策はどうなつておりますか。

市長：お話があつたように、コロナ対策について、私は職員に対して大規模災害というつもりで取り組んでほしいと伝えているところです。

また、マニフェストの1丁目1番地に、「災害による犠牲者ゼロを目指し市民の生命と財産を守るまち」を掲げてあります。対策として大きなハード事業は、平成29年度から3か年計画で、津波避難困難地域を解消するために防災タワーを3つ建てました。これにより津波避難困難地域はすべて解消されました。そして、この庁舎も防災拠点ということで実施設計がこの9月に終わり建替えが進んでまいります。これが完成すれば、大規模なハード事業は一応終わるかなと思って

ります。それでも、避難指示に一本化されましたが。そのことを市民の方々に周知徹底して、自分の命は自分で守る。そのときは、何をやればいいかとい

うことを一人一人に考えて、能だと考えています。建設した防災タワーを積極的に活用し、市民の皆さんと一緒に防災訓練を重ねていく。町内会単位での防災訓練に加えて、健康づくりと連携した「防災さんぽ」など、市民の皆さん方に気軽に取り組んでいただけるよう考

えています。施設が整備されても、避難しなければ駄目なので、私だけは大丈夫という正常化バイアスを市民の皆さんから取り除く取り組みも強力に進めていきたいと考えています。中央防災会議でも、自らの命は自ら守るというよう

に、防災対策の方向性も変わってきています。避難勧告が避難指示に一本化されました。そのことを市民の方々に周知徹底して、自分の命は自分で守る。そのときは、何をやればいいかとい

### (3) わかやま住民と自治

2021年7月30日発行 第330号



総合公園で女性団体によるイベント

いただき、津波や風水害、土砂災害、各種の災害に対し、地域に応じた防災訓練に取り組んでいきたいと

考っております。

**鈴木**：災害は、まず自分の身は自分で守ることが大事だというお話ですが、自ら

を守れない人もいます。地

域の安全を守っていくとい

う意味では、地域力が大事

です。

**市長**：そうですね。私もそ

の地域力を期待していると

ころです。先ほども触れま

したが、「災害による犠牲者ゼロを目指し…」と掲げ

ています。防災面から地域

力を向上させる町内会単位

の自主防災組織など、この

活動の強化が一番であると

考えています。今回、御坊

市自治連合会の自主防災組

織の活動を市全体に広げて

いただければありがたいと

大きいに期待しているところ

です。少子高齢化、核家族

化で地域的なつながりが希

薄化する中で、地域同士の

連携強化、災害から命を守

る、地域の活動が推進され

てきていると感じています。

新しい総合計画の中にも、

「みんなで創る」という言

葉を入れさせていただいて

います。市役所の我々が行

政力を向上させることはも

ちろんですが、地域でご活

躍されている団体やNPO、

地元企業が持つ個性とか技

術力をぜひ活用させていた

だいて、地域ぐるみでまち

づくりを進めていく必要が

あるというふうに考えてい

ますし、また期待もしてい

るところです。

**鈴木**：なるほど。御坊には、

祭りのすぐれたコミュニティ

力があります。

**市長**：各地域で祭りが盛ん

で、祭りを中心としたコミ

ュニティが今なお残ってい

ます。これは御坊市特有の

文化で、地方創生というこ

とでも大変うれしいことで

す。祭りで培った人と人との

つながり、ふるさとに対

する愛着というのを我々行

政にも力を貸していただき

て、協働でまちづくりに取

り組んでいきたいと思つて

いるところです。

その意見を実現していく

ために、総合計画を実施し

ていく。3年間の実施計画

をこの秋につくっていくわ

けです。これから前期事業

計画100個のうち、どん

な実施計画が出てくるのか

楽しみにしているところで

す。

**鈴木**：若い世代が集う行動

するまちづくりを期待しま

す。

若い女性が仕事と子育て

の両立ができる生活の場面

づくり、どのような施策を

お考えでしょうか。

開催など、子育て世代の方々に様々な機会で横のつながりが生まれています。

これを広げていき、今後とも彼女たちのネットワーク

が生かせるように、子ども

思える環境をつくっていけ

ればと考えております。今

後ますます女性の力が必要

になつてくると思っており、

市役所でも女性幹部の登用

や、様々なまちづくりの会

議の場でも、積極的に女性

の登用を行つていきたいと

思っています。

**鈴木**：女性の居場所づくり、

活躍の舞台はもつと充実し

てもいいと思います。

**市長**：そのとおりだと思い

ます。

**鈴木**：総合公園に若いお母さんたちが集まつて、いろんなイベントなんかも開かれていますね。

市長：総合公園の可能性は

限りなくあると思っていま

す。あんなに大きく広い芝

生を持つ公園は、昔は考えられなかつた。それに遊具

も設置した。木製遊具の新

な分野で若い世代が活躍し

ています。御坊では様々

の女性団体によるイベント

場・多目的グラウンド、歴史館もあり、どこにも誇れるすばらしい総合運動公園になつてゐると思います。

また野口キャンプ場、Siの御坊の大好きな地域資源と

も連携していきたいと考えています。

### キヤンプ場を拠点に観光まちづくり

鈴木：野口キャンプ場は、



野口キャンプ場

**鈴木：**施設が充実していることも、人気がある理由だと思います。ポストコロナの新しい生活スタイルが生まれてくる場所と思うのですが。  
市長：そうですね。長所を伸ばしていくことが重要です。野口キャンプ場は電源サイトが広く、全国的にこのように広い電源サイトはないとい好評を得ています。それに加えて、プライベー

大ブレイクです。

**市長：**キャンプ場をテーマにして、アウトドアと食を発信したり、キャンピングカークラブの方々との出会い、つなぎを大事にしていく中、全国にSNSで配信してもらう取り組みが非常に功を奏したと思いま

す。100万人が1回来るよりも1万人が100回来るというコンセプトのもと、キャンプ場だけで年間1万人に来ていただきました。昨年はコロナの影響で8000人になったようですが、関係人口を増やすということでは今は一番成果が上がっています。

**鈴木：**どういうものですか。  
**市長：**キャンピングカーなどで来た人に市内のスーパー銭湯（宝の湯）とか、紀州鉄道を利用してもらうなど本市の魅力を感じてもらつたところです。

**鈴木：**ううのです。そういう観光情報と市内のおいしいB級グルメ、お好み焼き屋、うなぎ屋、そば屋さんなど、いろんなお店を乗せたパンフレットになつていま

す。これはあくまで冊子の1つですが、プロモーショ

トのドッグランを新たにつくりました。これも大人気で土日はもちろんのこと、平日でも予約でいっぱい大変好評を得ています。更に電源サイトを増設していくとか、そういうことも考えているところです。

先ほど、先生がおっしゃったように現在、キャンプ場がおっしゃったところです。地元の小中学生、御坊の子どもたちみんなにキャンプの達人になつてもらいたいと思っています。

**鈴木：**おもしろそうですね。パンフレットを拝見すると、食に関連する情報があります。御坊は、発酵の食文化が生まれ、息づいているまちだと思います。

**市長：**海あり山あり川ありで食材にも恵まれております。ふるさと納税なんか活用しながら、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

**野口キャンプ場で、御坊の食材を集めて、バーベキューみたいな形で食べていただく。全国から来られる年間1万人の方に、御坊にはこんな農産物、水産物、発酵の商品があるとか、そ**

ばらしいかな、それをふるさと納税につなげていく。

1つの拠点から広げていくことがいいのではないか。

キャンプ場にテントを張つて特産物を売つたり、PRする。また来られた方に市内の周遊ルートを案内して、

例えば水産物では、いけすに入つた生の魚を刺身にしてお店で食べていたら。

また観光農園には、イチゴの「まりひめ」、スイカの「ひとりじめ」、メロンもあ

るので観光産業と食を組み合わせたまちづくりを進めています。そういうコアの

ところから広げていけたらいいかなと思っています。

鈴木：コンセプトは地産地

消ですね。

市長：そうですね。白浜や勝浦みたいに温泉はないで

すが、今言つたように、人が来てくれる場所がある。

農と結び付けた観光があります。

鈴木：地域にある資源をより発掘していくことが重要だということだと思います。紀州鉄道という資源もあり

ます。

市長：これまでも観光面でも積極的にご協力を頂いており感謝しています。紀州

鉄道は地元の高校生や市民の皆さんに愛されていると

いうふうに感じています

し、イベントや観光素材に

なっています。これからも連携協力して、全国から多くの鉄道マニアの方に集まつていただけるような大人

気の鉄道にしていかなければいけなと思っています。

そういう意味で「健康さんぽ」とか、まちなかを歩いてみたりする取り組みを行つていただきたい。僕自身も健康に気をつけて結構歩いているのですが、住みやすい地形的に恵まれた地域であるということを、ことあるごとにアピールしていくたいと思っています。

## 500メートル圏内 コンパクトな魅力に目を

鈴木：市長は、まちへの愛着と誇りを強調しています。

市長：東洋経済社が発刊している『住みよさティタラ

ンキング』では2年連続、県下1位で、近畿では5位。

昨年は大阪市に次いで2位になっています。御坊市が

住みよいまちだということ

を実現させることはでき

ないと思います。

全体的なことで言うと、

財政が厳しい中で10年かけて市民の皆さん方に約束した総合計画を実現していくことに尽きると思います。

鈴木：500メートルのま

けば、お医者さんも学校も買い物する小売店もある。

こんなすばらしいところはないんだというのを再実感していただく。そういうのを再実感

取り組みも進めていけたらいいと常々思っているところです。

そういう意味で「健康さんぽ」とか、まちなかを歩いてみたりする取り組みを行つていただきたい。僕自身も健康に気をつけて結構歩いているのですが、住みやすい地形的に恵まれた地域であるということを、ことあるごとにアピールしていくたいと思っています。

ち、魅力があります。しか

も、すぐそばになだらかな緑の山並み、日高川の流れ、太平洋がある。

市長、もう少しだけお付

り合いください。再生エネ

ルギーと循環型社会に関し

ての取り組みですが。

市長：もちろん御坊市も環境低負荷型社会への転換を目指しています。特に住宅

用のLED電球の購入補助

とか、自治会が実施する防犯灯のLED化、取替え補

助などに3年ぐらい前から取り組んでおり、あと2年

で両方とも達成する見通し

です。

昨年、市民や事業所の皆

さん方に4R、リフューズ、

リデュース、リユース、リ

サイクル、この4Rの意識

づくりに向けた啓発に加え、

最終処分業者に環境保全負

担金を求めるという条例を

設けました。引き続き、総

合計画でも自然と共生する

持続社会、SDGsの実現

に向けて、市民・事業者・

行政が一体となつて、環境

特に、うちには大洋化学株式会社という企業があり、ペットボトルのリサイクル

などにも力を入れています。

市長：向こう10年を見ただけでも、重要な難しい問

題がたくさんあります。

市長：総合計画を実現するには、持続可能、健全な財政運営に努めること。それ

には、行政改革や時代に応じた行政組織への転換、それ

から適正な人員配置が求められています。

これで対応には、府内最

上位に位置付けている政策

会議の中で適材適所の人材

登用をはじめ、行政組織の

見直しに取り組んで参りました

いと考へています。

これらの対応には、府内最

上位に位置付けている政策

会議の中で適材適所の人材

登用をはじめ、行政組織の

見直しに取り組んで参りました

いと考へています。

これらの対応には、府内最

上位に位置付けている政策

会議の中で適材適所の人材

登用をはじめ、行政組織の

見直しに取り組んで参りました

# 草の根運動の実り みんなの願いを持ち寄って

社会福祉法人 桃郷 常務理事 船木 栄子



現在の園舎（ひまわり園：紀の川市）

紀の川市に事務局を置き、紀北地方（紀の川市、橋本市、かつらぎ町、岩出市）の8か所で障害児通所支援事業を行っている、社会福祉法人桃郷の船木栄子常務理事（元桃山町保健師）に、乳幼児の療育施設づくり運動の出発点から現在までの歩みを投稿していただきました。

今から約35年前、みんなの願いを持ち寄つて乳幼児専門療育施設つくり運動がはじまりました。

「私のどこが、何がいけ

なかつたのか？私のせいでも子どもにしんどい思いをさせているのでは？」  
「妊娠中は十分注意しました。子育てに夢と憧れでいっぱいでした。それなりに…」

「私たちも遠慮なく楽しんで子育てがしたい」「一人ぼっちの子育てはつらい」「話し合える仲間が欲しい…」

## 行政機関での保健師や関係職員の願い

## 学校や作業所、医療等の現場職員の願い

見ができる方向の見えない現状の中、やむにやまれさせているのでは？」  
「和歌山で責任を持つて子育ての場を」という叱咤激励を受けることが多く、健診をするたびに悩みを膨らませていくのでした。何とかしなければ…

行政機関で働く保健師は、母と子の健康を守る業務として、母子保健法のもとに乳幼児健診を実施します。1978年乳幼児健診の改定があり、従来の乳幼児一斉健診が「1歳6か月健診」として法制化されました。今までには、3歳児健診を節目としての健診でしたが、この法制化によって、発達につまずきを持つ乳幼児を早期に知ることができますようになりました。しかし、受け皿となる医療体制や療育体制がなく、早期発

乳幼児期につけておかなければならない力、それは健康な体づくりと基本的な日本の生活文化の習慣の学習です。学童期や社会生活中では、少し遅すぎるのではないか？乳幼児期のより丁寧な保育・教育、そして療育も含めた施設がほしい、何とかしなければ…

## 地域のクラブや民主団体のみんなの願い

「かわいそうな障害者」「障害者が来る」と地域が重



無認可運営時のプレハブ園舎

那賀郡内・各々6町では第一歩は土曜保育・親子教室からのスタート

健診後親子教室を開催していましたので、誘える親子に保健師が声掛けをしていました。6人の親子が参加、岩出地区公民館の玄関にビニールプールをセットして、真っ裸で遊んだ子どもたちは、はちきれんばかりの笑顔でした。

度重ねるごとに、子どもも保護者もこの遊びの広場を待ち望むようになり、なによりも、ボランティアで企画参加している私たち保健師にも、「子どもが自然に楽しめていて、お友達を意識し落ち着きが出来てきている姿」に手ごたえをもち、そしてまた、お母さんたちのゆつたりとした姿に、これこそ今求めているみんなの願いであることに共通の思いを持つものでした。そして、地域の夏祭りや子ども会にも参加し輪が広がっていきました。作業所を作る会のボランテ

1974年「大津方式」という乳幼児期の発達の節目に基づく健診が打ち出され、健診漏れ〇、発見漏れ〇、対応漏れ〇の目的のもとに障害児の早期発見、早期対応での療育システムが取り組まれていました。また、1978年岸和田市では、健診の受け皿として知的障害児通園事業「パパースケール」ができていました。大阪府下では「寝屋川あかつきひばり園」「吹田親子教室」等々の取り組みが先進されていました。

1988年11月無認可運営ひまわり園開所。7人の児童福祉法では、1974年施設通園対象児に対する規定の撤廃があり、学童期（6歳以上）からの施設通園対象は乳幼児期と改められ、同年（1974年）障害児保育実施要項により障害児保育・療育が保育所や幼稚園に位置付けられました。和歌山県では1996

荷」そんな見方はもうだめだ、誰が、いつなんどき障害を負うかもしれないから、みんなで考える地域、助け合う地域を作るために、地域福祉づくりとしての願い、何とかしなければ・・・

健診後の親子教室を開催していましたので、誘える親子で楽しむ遊びの広場として、土曜日の午後から始めました。6人の親子が参加、岩出地区公民館の玄関にビニールプールをセットして、真っ裸で遊んだ子どもたちは、はちきれんばかりの笑顔でした。

1974年「大津方式」という乳幼児期の発達の節目に基づく健診が打ち出され、健診漏れ〇、発見漏れ〇、対応漏れ〇の目的のもとに障害児の早期発見、早期対応での療育システムが取り組まれていました。また、1978年岸和田市では、健診の受け皿として知的障害児通園事業「パパースケール」ができていました。大阪府下では「寝屋川あかつきひばり園」「吹田親子教室」等々の取り組みが先進されていました。

1988年11月無認可運営ひまわり園開所。7人の児童福祉法では、1974年施設通園対象児に対する規定の撤廃があり、学童期（6歳以上）からの施設通園対象は乳幼児期と改められ、同年（1974年）障害児保育実施要項により障害児保育・療育が保育所や幼稚園に位置付けられました。和歌山県では1996

イヤ仲間とも一緒に取り組みました。

## 一方近隣府県では そして和歌山県下では

4年社会福祉法人あおい会「あおい学園」が知的障害専門療育施設として設立され以来、知的障害を持つ児の専門療育施設は公立・私立を問わず皆無の現状であり、近隣先進地との20年の遅れに大いに苛立ちました。手を取り合った保健師、保育士、教員、仲間たちと障害児保育運動連絡会を結成し、学習や連携のもと無認可運営での「ひまわり園」の取り組みを始めました。

り、厨房器具はバザー用品でと、最低限に抑えることができましたが、当時はまだ社会の目は厳しく、発達につまずきを持つ子ども達の保育ということになかなか理解が得られず、地域の反対もあり難関なものでしたが、それを吹っ飛ばすかの、子どもたちの素敵

な笑顔と子どもらしい姿、優しい眼差し、そして保護者同士の楽しそうな会話、勇気を持ったものです。入園希望者も増えてきました。小さく不備なプレハブ園舎では追いかなくななりました。また、様々な学習の機会も積極的に取り組みました。保健師を中心としての発達講座の開催、人間発達研究所から大学の教授や全国障害者（児）問題研究会の発達を支える会の発足、10人の運営委員の下で、ナインイズくめの苦しい世帯をやりくりに知恵をだしありました。たくさんの方々の力もいただきました。土地は無償借地、プレハブ園舎は無償間伐材での床つく

## 次は、無認可運営 「ひまわり園」 スタート

1988年11月無認可運営ひまわり園開所。7人の児童福祉法では、1974年施設通園対象児に対する規定の撤廃があり、学童期（6歳以上）からの施設通園対象は乳幼児期と改められ、同年（1974年）障害児保育実施要項により障害児保育・療育が保育所や幼稚園に位置付けられました。和歌山県では1996

ある」「人間が発達するこれが権利であり、その権利



ボランティアと一緒にでのもちつき行事（無認可時）

「の課せられた役務である」  
を保障していくのが私たち  
のこと気に気づかされまし  
た。そして、それをエネル  
ギーとして、みんなで手を  
つなぎ認可運動を展開して  
いきました。

そして、みんなの願い  
が実った「社会福祉法  
人桃郷・ひまわり園」

無認可での5年間の「ひまわり園」運営で、子ども

の育ちに確かな手ごたえを持ちました。そして保護者・関係者の学習によって認め可施設の必要性が高まり、地域の方々や民主団体の方々の建設資金集めの協力・カンパ活動を展開してきました。

姉）と和歌山青年学級創設者（故前川尚子姉）よりいだいた祝辞は、いまでも忘ることのできないものであります。

設立30年を迎える今

育の場が身近なところで提供されています。そして、私はこのように回顧していくこと、そのことに至福の喜びを得ています。

余筆、資金活動で集めたお金は680万円以上、土地の寄贈、100万円の自己資金、医療事業団からの借入金4,000万円、国・県・補助金4,800万円で元桃山町補助金1,000万円、残りは個人や団体の出資金をお借りして、総工費13,000万円で園舎の完成を遂げることができました。

毎年、法人内の各通園施設では36名の園児たちが、お友達と生活を楽しみまい、そして保護者の方々と職員が子どもへの夢と希望を語り合い、そしてみんなで「丈夫な体と賢い心」の持ち主にと、命の大切さを学んでいます。無認可時代を経験した卒園児は、はや30代後半でそれぞれが社会参加し、そして、自分らしく堂々と人生を謳歌しています。願いがかなつたみなさんの宝物なのです。

育の場が身近なところで提供されています。そして、私はこのように回顧していくこと、そのことに至福の喜びを得ています。

現在、和歌山県内15ヵ所に地域の中核的乳幼児専門療育施設ができ、また、より身近な事業として児童発達支援事業は69か所も各地域で実施されています。しかし、1999年、社会福祉基礎構造改革のもとでの施設の民営化や自由化が進み、必ずしも発達保障をを目指していると言い切れないものです。また、年々出生数減少を見る中で、乳幼児期からの丁寧な子育てへのかかわりが必要とされる子どもが多く見受けられ

の出資金をお借りして、総工費13,000万円で園舎の完成を遂げることができました。

1994年3月23日、1  
50余名の列席を得て竣工式が挙行されました。

学んでいます。無認可時代を経験した卒園児は、はや30代後半でそれぞれが社会に参加し、そして、自分らしく堂々と人生を謳歌しています。願いがかなったみんなの宝物なのです。

育の場が身近なところで提供されています。そして、私はこのように回顧していくこと、そのことに至福の喜びを得ています。

保護者をはじめ関係した人たちの・・なみだ・涙・なみだ・・・・。  
「和歌山の宝物」「和歌山のすばらしい財産」「私たちの誇りです」と、たからかに全国障害者問題研究会和歌山支部長（故上杉文代

さつていた600余名の方々は、ひまわりの種となり桃郷の根っこをしっかりと支えてくれています。紀北から発信した一粒の種は30年たった今では、和歌山県下に広まり、乳幼児専門療育施設としての保育・療